

子どもたちをまん中に 安心安全な町を地域連携の力で！

宮城県仙台市若林区 仙台荒町子まもりプロジェクト実行委員会

仙台市の中心市街地にある荒町。市街地には人も企業・お店も多いが子どもへの目線はそれやすく死角も多いと感じ、10年以上前から商店街のお店が子どもたちとの接点を作り挨拶が交わせる関係を築いてきました。

「子どもが駆け込んできたときにしっかりと防犯対応したい」

そんな思いから2020年「子まもりプロジェクト」子どもたちをまん中に安心安全な町を地域連携の力で！」をテーマに、日頃から関わりの深い荒町商店街振興組合・荒町児童館・荒町市民センターで立ち上げました。警備会社、警察署協力のもと荒町小学校学区内の小・中学校、大学、荒町地区社協(防犯協会)や企業等合わせて16団体が連携し構成しました。4年目になる2023年には保育

園や専門学校・町内会なども加わり30団体で連携。10月の1ヶ月間荒町小学校学区内を子まもり防犯月間として以下の共通ワードで防犯活動を実施。①各団体が強みを活かして主体的に子ども防犯、地域防犯の活動やサポート活動をする②無理なくできる範囲で行う。これにより様々な視点からの防犯活動ができ、各団体が参加しやすく、連携先が増えることにもつながりました。子ども防犯を中心に地域防犯の意識を高めて、お散歩時、配達時、通勤時に温かい眼差しで見守る「ながら見守り365日」を地域全体で増やしていくことを目的に進めています。

また立ち上げ当初から「荒町だけではなくこの町でも実現可能な仕組みづくりが構築



子まもりハロウィン

できるように」と協議、周辺小学校学区にも働きかけ、地域防犯が面が広がっていくことを見据えた活動も行っております。



1. 活動のきっかけ

2008年TVの報道番組で「北海道の小さな町で6月に伝統行事としてお店や家で子どもにお菓子をあげる風習があり：子どもと

店主らが日頃から挨拶を交わし、町では子どもへの犯罪がほとんどない」そんなニュースを耳にしました。当時子どもたちとの関係性は店先で子どもに挨拶すると走って去られる・・・そんな都会でよくある関係性でした

ので、その報道をヒントにハロウィンを通じて関係性を築いていこうと考えました。

2008年から子どもたちが困ったときにお店に駆け込めるよう防犯を目的とした子どもハロウィンをスタート。お店負担でお菓子を用意して子どもがお店に入ってお菓子をもらう。駆け込む訓練も兼ね挨拶できる関係性が少しずつ広がってきました。子どもハロウィンを継続していくと、商店街での参加店は漸増し30店までになり、荒町地域の約500名の子どもたちが来るようになりました。

子どもハロウィンが広がりを見せる一方で「子どもたちが駆け込んできた時に正しく対応できるのか？」疑問が湧き、「もっとしっかり防犯対策を地域で行っていききたい」と思うようになりました。そこで商店街が児童館、市民センターに共催相談。荒町の子まもりハロウィンの活動を知っていた警備会社・児童館を警備も「私たちもお役に立ちたい」と4団体で協議し、さらに若林警察署にも協力いただけることになりました。荒町は七夕、お祭りや神輿担ぎ等で地域の団体との関わりが深かったため、荒町に関わる機関・団体・企業とも連携できないか？と考え声掛けをしていきました。そして賛同の団体が増えていき16団体で結成しスタートに至りました。

2. 主な活動内容

(各団体の主体的な取組み)

(1) 荒町商店街振興組合・児童館・市民センター
共催

「子どもがお店に駆け込む防犯訓練」不審者役・警察署員、子どもがお店に駆け込み店主が110番

(2) 荒町商店街振興組合主催

「子まもりハロウィン」30店参加し、子どもたちと接点を持ち、困ったら駆け込めるよう、挨拶できる関係性を作る防犯目的で実施

(3) 荒町児童館主体



荒町子まもりプロジェクト連携図

「親子で子まもり防犯教室」人形劇で不審者について他逃げ方「いかのおすし」を学ぶ
 (4) 荒町市民センター主体

「町内向け防犯教室」子ども犯罪の傾向、町内での見守り方、特殊詐欺の傾向を実演。

(5) 東北学院大学・防犯ボランティア・連坊地区町内会連合会主体

「特殊詐欺防止のチラシ配布」「学内のサイネージ」

(6) 荒町小学校・五橋中学校・実行委員会
 「防犯ポスター・防犯標語コンクール」

受賞者を全校集会で表彰。困った時や危険を感じた時はお店や会社に駆け込んで助けを求めるように児童、生徒へお願い。

(7) みんなのBASE・五橋中美術部・荒町児童館・実行委員会

学区内の201軒のお店や企業へ子どもが駆け込んだ際の対応マニュアルと防犯ポスターを配布。美術部生徒、児童クラブの子どもたちも一緒にお店や会社を回りました。

(8) 荒町学区内の金融機関主体

金融機関リテラシー・4年生授業「お金の教室」スマホ課金等無駄遣い防止・ウェブ防犯」

(9) 荒町学区内の企業主体

「活動報告レポート制作」「サイネージ」「防災喫煙所でのポスター掲示」活動の周知広報

(10) その他の地域へ防犯意識を高める活動、サポート活動

荒町地区社会福祉協議会「子まもり隊として誘導協力」・仙台市社協若林事務所・五橋地域包括支援センター「困りごと相談会・認知症講座」・小規模保育事業所ココカラ五橋地域連携作品展」・ファニーハート保育園「防犯公園清掃」・連坊小路マイスクール児童館(隣の学区)「飛び出せハロウィン」

3. 成果と今後

この活動を通じて、今では小学校や警察署、区役所から不審者情報の連絡が入るようになりました。各団体と関係が深まり認知も広がりました。新たな情報網として子まもりプロジェクトのグループLINEを作り、荒町小学校区の不審者情報が入った際に各団体の登録メンバーに瞬時に伝わる仕組みも作りました。また荒町小学校、五橋中学校の全校集会で地域のお店や会社団体が連携して子どもたちを守る防犯活動をしていることを伝え、中

学生が通学中に小学生を見守る意識も広がってきました。子どもたちからはお礼のお手紙が届き「私も優しくされるだけではなく、優しくしてあげる側になりたい」「私も大人になったら、人の役に立つ大人になりたい」と伝えてくれました。私たち大人の背中を見ている子どもたちが将来、地域課題解決の担い手になるのだと感じています。

地域資源(町の身近にある機関・団体・企業)を可視化し地域連携図を作成。32団体に参加していただき意見交換すると、日頃から防犯の活動をされている団体や地域のゴミ拾いを定期的に行っている企業もあり、身近に素晴らしい活動をしている機関、団体、企業が存在することに改めて気づけました。商店街の強み、学校や児童館の強み、行政機関の強み、企業の強みがそれぞれあり、縦割りではなく連携することで防犯に様々な視点や角度から取り組み、地域の意識を高めることにつながると感じました。どこの町でも実現可能な取り組みと伝えてきた成果も出ており、隣の小学校区でも防犯目的のハロウィンからスタートしました。

面で広がっていくこと、とても嬉しく思います。身近な地域資源に気づき、地域の課題解決を様々な団体が連携して取り組むこのプロジェクトは防犯に限らず地域の課題解決をしていく仕組みとしても価値が高いと思います。今後も活動を継続して、地域の多くの方が温かな眼差しの芽を増やし、そして「安心安全なまち仙台」として、ながら見守り365日、が広がるように活動事例を伝えていきたいと考えております。

(仙台荒町子まもりプロジェクト実行委員会 実行委員長／荒町商店街振興組合副理事長

庄子康一)